

## サマリー

### 「エネルギー安全保障対策及び気候変動対策としてのアジア主要国の代替燃料導入策の現状と展望に関する研究」の概要

戦略・産業ユニット	理事	小山	堅
戦略・産業ユニット	国際動向・戦略分析グループ	石田	博之*
	〃	本蔵	満
	〃	栗田	抄苗
戦略・産業ユニット	石油・ガス戦略グループ	藤島	弘治

本稿は、平成 20 年度国際石油需給体制等調査「エネルギー安全保障対策及び気候変動対策としてのアジア主要国の代替燃料導入策の現状と展望に関する研究」の表題の下、日本側研究主体として財団法人日本エネルギー経済研究所、インド側研究主体として Petroleum Planning & Analysis Cell (PPAC) の二つの機関が共同で調査研究を行い、自動車用代替燃料について分析し、とりまとめたものである。本稿は、第 1 章では本共同研究の意義について、第 2 章ではその経緯について、第 3 章ではその概要について、第 4 章ではその主な成果と今後の課題について整理を行った。

各分析を踏まえて得られたアジア石油市場安定化のための本研究の提言は次の通りである。今後、自動車用代替燃料が世界的なエネルギー商品となり、国際石油市場の安定化に貢献するための課題として、費用対効果・環境性に優れた生産技術の開発・普及、代替燃料に関する国際市場の創設、それらが発展できる環境を作る為の包括的政策を構築する必要性が指摘される。また、アジア各国の諸事情に応じた対策を補完するため、政府・ビジネス・研究機関の三つのレベルにおける地域間協力・対話の強化が期待される。

お問い合わせ：report@tky.ieej.or.jp

---

\* 現、客員研究員。